

〈研究ノート〉

『今昔物語集』天竺部にかかわる内容構成表

柏木寧子

はじめに

『今昔物語集』天竺部五巻は、巻第一から第三において釈迦仏の一代記、巻第四・第五においてそれぞれ釈迦仏入滅後および出世前にかかわる諸説話を語る。全百八十七の説話群は、古代天竺にかつて現れ、過ぎ去った仏のさまざまな行為を反復し、一つの全体をなす出来事として描いている。肉身をもった仏とはどのような存在であったのか、この娑婆世界におけるその一回的出現とはどのような出来事であったのか。古代天竺から遙か隔たる後代日本において遺法を伝持する人々の中には、法の原点である仏を改めて問い、捉え返そうとする欲求がときに懐かれたことであろう。『今昔物語集』の成立事情は不詳にとどまるが、全三十一巻、とりわけ天竺部五巻は、仏をめぐる人々の思考が展開して一つの物語の形をなしたものの、いいかえれば、〈仏〉観念の物語的展開形と見ることができる。

本稿は、〈仏〉観念に関する一思想テキストとして天竺部五巻を読むための資料である。『今昔物語集』読解の手引き書は幾つも刊行されている。全巻展望の便宜としての「構成表」もすでに作成されているが*1、天竺部五巻の詳細な検討のためにはやや簡略に過ぎると思われる。本稿は、とくに天竺部五巻に範囲を限定しつつ、より詳細な内容構成表の作成を試みるものである。

天竺部五巻の内容は、時間的展開に沿うならば、巻第五、巻第一から第三、巻第四、の順に並べられる。本稿では五巻をこの順に、また、各巻に含まれる説話もほぼ配列順に並べ、内容に従って分類しつつ、各説話の概要を知り得るよう、主人公の名・身分や行為・境涯を付記して巻毎の表とした。適宜付表を添えた巻もある。

天竺部の思想的読解の資料として、この内容構成表はもとより十分なものではない。何であれ、思想テキストを読解するにはその構造次元に踏み込んだ解釈が不可欠であり、独自の観点を設定してテキストへの接近を図らなければな

らない。単に説話を配列順に並べた構成表だけでなく、さらに多様な角度からの内容整理が必要であろう。本稿においては、わずかではあれ、最初の手がかりを得てのちの作業の準備をなすことを目指したい。

【目次】

- 《表1》 各巻の内容と大きな分類
 《表2》 巻第五 仏出世前にかかわる諸説話（全32話）
 [付表A] 主人公身分による分類
 [付表B] 仏の前生への言及を含む説話一覧（巻第五所収説話以外）
 《表3》 巻第一 仏の一代記（その一）（全38話）
 《表4》 巻第二 仏の一代記（その二）（全41話）
 [付表C] 善因楽果の因縁物語（第8話～第27話）における善因内容一覧
 《表5》 巻第三 仏の一代記（その三）（全35話）
 《表6》 巻第四 仏入滅後にかかわる諸説話（全41話）

《表1》 各巻の内容と大きな分類

巻	巻第五	巻第一～巻第三	巻第四
内容	仏出世前にかかわる諸説話 （全32話）	仏の一代記 （全114話）	仏入滅後にかかわる諸説話 （全41話）
大きな分類 ^{*2}	①仏の前生譚（ジャータカ） ②その他の前生譚 ③前生譚以外	④成道の最終過程 ⑤教団の成立／教団の構成者たち ⑥衆生教化 ⑦仏弟子たち ⑧衆生救済 ⑨入滅	⑩仏法の存続 ⑪仏の不在／仏の痕跡の存続 ⑫教団の存続 ⑬仏像・経典等の靈験 ⑭教団の展開 ⑮仏法の伝播 ⑯仏法靈験に類する現象 ⑰諸仏の化現・靈験

《表2》 卷第五 仏出世前にかかわる諸説話（全32話）

（ ）内は巻第五の説話番号を示す

内容による分類		該当説話（主人公身分別に示す）
①仏の前生譚 (ジャータカ)	布施行（身施）	王族（7, 8） 沙弥（11） 異類（14, 29）
	布施行（無畏施）	異類（18, 26）
	布施行（法施）	比丘（12）
	求法の苦行	王族（9, 10）
②その他の前 生譚	弁財天＝堅牢地神の 前生譚	異類（21）
	帝釈天・吉祥天・多 聞天・持国天の前生 譚	王族（22）
③前生譚以外	原拠が仏の前生譚* ³	王族（1） 仙（4） 人（19, 32） 異類（13, 25）
	原拠がその他の前生 譚	王族（5（仏生母））
	原拠が前生譚以外	王族（2, 3, 6, 15* ⁴ ） 比丘（15） 仙（30, 31） 異類（16, 17, 20, 23, 24, 27, 28）

【付表A】 主人公身分による分類

数字は巻第五の説話番号を示す。○付き数字は原拠が仏の前生譚であることを示す

主人公身分 による分類	該当説話（（ ）内に主人公名等を記す）	
	仏の前生譚（ジャータカ）	その他
王族	7（須闍提太子）、8（大光明王）、9（転輪聖王）、10（国王）	①（僧迦羅→僧迦羅国王）、2（師子の子→執師子国王）、3（玉盗人→半国の王）、5（鹿母夫人）、6（般沙羅王の卵生の500男子）、15* ⁵ （大王）、22（善生人・阿就誦女・終尤・明尤）
沙弥・比丘	11（沙弥）、12（比丘）	15（比丘）
仙		④（一角仙人）、30（提婆那延）、31（仙薬を服した牛飼）
人		⑱* ⁶ （放生する男）、⑳（老母）

異類	14 (師子), 18 (九色鹿), 26 (子象), 29 (大魚)	⑬ (菟), 16 (竜王), 17 (鼠王), 19 (亀, 蛇, 狐), 20 (狐), 21 (狐), 23 (猿), 24 (亀, 鶴), ⑮ (猿, 亀), 27 (象), 28 (摩竭大魚)
----	-------------------------------------	---

【付表B】 仏の前生への言及を含む説話一覧 (巻第五所収説話以外)

巻	説話番号	発言者	状況・内容等
巻第一	6	地神	魔王に対し、菩薩の前生の修行について証言する
	17	仏	耶輸陀羅に対し、現生の夫婦関係について因縁を物語る
巻第二	3	仏	帝釈天に対し、病の一比丘への報恩について因縁を物語る
	4	仏	弟子等に対し、塔供養について因縁を物語る
	5	仏	一在家信徒に対し、六日供養受納について因縁を物語る
巻第三	28	仏	弟子等に対し、釈種滅亡と自らの頭痛について因縁を物語る
	13	仏	(對手不詳) 現生における耶輸多羅との不仲について因縁を物語る
巻第四	28	仏	文殊菩薩ほかに対し、自らの背痛について因縁を物語る
	17	盗人	仏像に対し、出世前の菩薩の修行を列挙する

《表3》 巻第一 仏の一代記 (その一) (全38話)

() 内は巻第一の説話番号を示す (第20話および第24話は本文欠)

内容による分類		該当説話とその主な内容
④成道の最終過程		托胎 (1) 出生 (2) 受楽・四門出遊 (3) 出家 (4) 苦行 (5) 降魔 (6) 成道 (7) 初転法輪 (8)
⑤ 教団の 成立 ／ 廻心 の外 道た ち	五比丘	憍陳如ら五人の比丘 (8)
	婆羅門教徒	舍利弗* ⁷ (9) 鶻堀魔羅 (16) 名不詳 (11)
	六師外道の徒	勝蜜 (12) 提何長者 (15)
	婆羅門教徒または六師外道の徒	満財長者 (13) 名不詳 (14)

教団の構成員たち	教団からの離反者	提婆達多 (10)	
	親族の出家者たち	子羅睺羅 (17) 弟難陀 (18) 養母憍曇弥 (19) 従兄弟阿那律・跋提 (21)	
	その他の出家者たち	王族 (22, 23) 長者の子 (25) 老翁 (26, 27) 醉人 (婆羅門) (28)	
	作善の在家信徒たち	社会的作善	須達長者：七日国王となり衆人に持戒・仏供養を勧める→授記 (29)
		持戒	帝釈天：不殺生戒の持戒→危難消除、後生善処 (30)
		布施	貧者 (須達夫妻)：仏弟子・仏に布施→現生に致富 (31) 貧者 (勝義夫妻)：仏弟子に布施→諸仏による讃歎、現生に致富 (32)
供養		貧女：仏供養→授記 (33) 牛の母子：仏供養→生天予告 (原拠では授記) (34) 楽人：仏供養→辟支仏予告 (35) 婆羅門：仏供養→辟支仏予告 (36)	
念仏	幼児：念仏→善神による加護、危難消除 (37) 群賊：念仏→危難消除、見仏・出家・得果 (38)		

《表4》 卷第二 仏の一代記 (その二) (全41話)

() 内は巻第二の説話番号を示す

内容による分類	該当説話とその主な内容
⑥ 衆生教化	仏による仏の父母の教化 父浄飯王：見仏・聞法、仏との身体接触→得阿羅漢果 (1) 生母摩耶夫人：見仏・聞法→得預流果 (2)
	仏弟子による衆生教化 貧女：摩訶迦葉の教化による布施→生天 (6) 長者の婢：迦旃延の教化による布施→生天→聞法・得預流果 (7)
	仏による仏の前生の因縁物語 病の比丘との関係：前生の仏のために恩を施す→仏による報恩 (3) 父浄飯王との関係：前生の仏のために塔を建立→仏による塔供養 (4) 在家信徒との関係：前生の仏に六日結縁→仏による六日供養受納 (5)

仏による衆生の前生の因縁物語（アヴァダーナ）	善因衆果の因縁物語	最終的衆果	現在の名あるいは身分：前生の善因
		出家・得阿羅漢果	<p>金天夫妻：毘婆尸仏滅後、比丘に布施（8）</p> <p>宝天：毘婆尸仏在世時、比丘に布施（9）</p> <p>金財：毘婆尸仏在世時、仏・比丘に布施（10）</p> <p>宝手：迦葉仏滅後、王の仏舎利塔建立に随喜、供養（11）</p> <p>灯指：毘婆尸仏滅後、仏の泥像の指を修理（12）</p> <p>叔離：毘婆尸仏在世時、比丘（および仏）に布施（13）</p> <p>蘇曼女の10人の男子：毘婆尸仏滅後、仏舎利塔修理（15）</p> <p>金色：毘婆尸仏滅後、仏舎利塔修理（17）</p> <p>摩訶劫戾那王：迦葉仏滅後、仏舎利塔修理（18）</p> <p>阿那律：毘婆尸仏滅後、塔内で仏像を照らす（19）</p> <p>薄伽羅：毘婆尸仏滅後、頭痛を病む比丘に薬を布施（20）</p> <p>名不詳（原拠では恒伽達）：人命救助、救われた者が辟支仏となり再会（25）</p>
		在家のまま得預流果	<p>瓶沙王：迦葉仏時（滅後？）、仏舎利塔修理→生天→人界転生後、見仏・聞法（17）</p> <p>天人：釈迦仏在世時、奴婢として須達長者に仕え、祇園精舎を清掃→生天→見仏・聞法（四諦の法）（21）</p>
		在家として福楽享受	<p>富貴等</p> <p>阿育王の女子：釈迦仏滅後*8、阿育王に婢として仕え、王の仏舎利塔建立に随喜、比丘に布施（14）</p> <p>樹提伽長者：山中の病者に住居・食物等を布施→富貴のほか、善神による加護（23）</p> <p>波斯匿王の女子：毘婆尸仏滅後、盤頭末王の仏舎利塔建立に随喜、供養→富貴のほか、身体光明（24）</p> <p>身体異相等</p> <p>田夫：仏像に焼香供養する比丘を羨む→身口芳香のほか、仏による授記（16）</p> <p>人：雨中の通行人に笠を布施→頭上天蓋（22）</p> <p>神：迦葉仏在世時、沙門に道案内→手指から甘露（27）</p> <p>国土領有</p> <p>二国の王：不殺生戒の持戒（26）</p>

悪因 苦果の 因縁物語	前生の 悪因	現在の名あるいは身分：悪因→苦果
	殺生	<p>積種：魚殺害→墮地獄→人界転生後、殺される (28)</p> <p>流離王：積種殺害→被災・頓死→墮地獄 (28)</p> <p>迦留陀夷羅漢：羊殺害→多生にわたり相互に報復し合う→得阿羅漢果ののち殺される (29)</p> <p>毘舍離の32人の男子：牛殺害→多生にわたり殺される→得預流果ののち殺される (30)</p> <p>微妙比丘尼：継子の殺害、偽りの呪誓→墮地獄→人界転生後、家族の横死と自らの危難相次ぐ (31)</p>
	傷害	大臣師質：辟支仏の臂を切断→自らの臂を賊人により切断される (32)
	妄語	不具の男子：二枚舌・妄語→墮地獄→人界転生後、舌・両目・両耳欠損 (33)
	悪口罵詈	<p>百畜の頭をもつ魚：師の沙門に罵詈→多生にわたり魚の身 (34)</p> <p>長者の子閻婆羅：阿羅漢の比丘に罵詈→多生にわたり臭穢の身 (36)</p> <p>餓鬼：比丘に悪口罵詈→餓鬼道に転生、自らの舌を利刀で斬る (37)</p> <p>長者の奴富那奇：阿羅漢の比丘に罵詈→多生にわたり奴の身 (40)</p>
慳貪	<p>天人：夫の布施を妨害→多生にわたり猪頭の身、不浄を食する (35)</p> <p>長者：乞匄を迫害→盲目の乞匄に転生して受苦、のち墮地獄の見込み (38)</p> <p>利群史比丘：母の布施を妨害、母を幽閉、餓死させる→衣食の欠損 (39)</p> <p>婆提長者：辟支仏に布施し、後悔→衣食の嫌悪 (41)</p>	

[付表C] 善因楽果の因縁物語（第8話～第27話）における善因内容一覧

善因内容		具 体 相
布施	仏に対する	財施 (8, 9, 10, 13)
	比丘に対する	財施 (10, 13, 14, 18, 20)
		道案内 (27)
	在俗者に対する	財施 (22, 23)
無畏施 (人命救助) (25)		
供養	仏・比丘に対する	主人の命令に従い、精舎を清掃 (21)
	仏舍利塔に対する	財の奉納 (11, 24)
		破損した仏舍利塔の修理 (15, 17, 18)
	仏像に対する	破損した仏像の修理 (12)
		仏前に焼香供養したいと願う (16)
		灯明を掲げて仏像を照らす (19)
持戒	不殺生戒の持戒 (26)	

《表5》 卷第三 仏の一代記（その三）（全35話）

() 内は卷第三の説話番号を示す

内容による分類	該当説話とその主な内容	
⑦ 仏弟子たち	在家信徒	浄名居士：諸仏を自室に招き、説法聴聞 (1)
	菩薩	文殊菩薩：諸仏の力を自らのうちに包摂、諸仏の師 (2)
	比丘	目連：仏の声を疑い、のち信心深化 (3)
		舍利弗：仏の言を怨み、のち帰順、性情について仏による前生の因縁説明 (4)
舍利弗：目連との神通力比べ (5) 舍利弗：阿難に対する慢心 (6)		
比丘尼*9	耶輸多羅：在俗時の仏との不伸について、仏による前生の因縁物語 (13)	
⑧ 衆生救済 異類	竜	悪竜：迦膩色迦王、仏舍利塔を建立、悪心を消去させる (7)
		瞿婆羅竜：仏、仏の影像を留め、悪心を消去させる (8)
		竜王：仏、金翅鳥の難の免れ方を教える (9)
		竜王の女子：釈種、婚姻により竜の身を免れさせる (11)

鳥	金翅鳥：仏、阿修羅の難の免れ方を教える (10) 鸚鵡：阿難、仏法（四諦の法）を説く→生天、辟支仏予告*10 (12)
鬼の類	金剛醜女：仏、醜貌の因縁を物語り、現生に美貌に転身させる (14) 燼杭太子：帝釈天、醜貌の因縁を物語り、現生に美貌に転身させる (15)
貧賤者	貧窮の孝子：十方諸仏の加護あり、現生に後に転身 (16) 屎尿処理の女人：仏、衰れんで教団に迎え入れる→聞法・得阿羅漢果 (21)
阿羅漢に対し罪を犯した者	国王：阿羅漢の比丘を無実の罪で十二年投獄→この間に前生の罪を減ぼした比丘、国王を許す (17) 比丘：阿羅漢の沙弥二人を長年使役→この間に成仏の行を修した沙弥たち、師の比丘を許す (18)
仏に対し罪を犯した者	老婢毘低羅：仏に対し前生に罪（罵詈）、仏と無縁→仏、羅睺羅を介して教化→仏のもとで懺悔・出家・得阿羅漢果 (19) 鸚鵡：仏に対し現生に罪（罵詈）→廻心、仏のもとで懺悔・聞法→滅罪 (20)
慳貪・貪欲の心深き者	盧至長者：帝釈天、方便を用いて教化→見仏・聞法・得預流果 (22) 慳貪女：賓頭盧尊者、方便を用いて教化→貪欲消滅→見仏・聞法・得阿羅漢果 (23) 目連の弟：目連、方便を用いて教化→仏による生天・出家の予告 (24)
仏法未伝国の衆生	仏法禁制の国：大王（原摺では優陀延王）の後、ひそかに仏法（三帰依文、十二因縁の法、四諦の法）を聴聞→執金剛神の加護あり、后、殺害を免れる→大王廻心、仏法外護に転ずる (25) 罽賓国：仏、弟子迦旃延を派遣→迦旃延、一女人を教化→女人、大王の後となり大王を教化→大王廻心、仏法弘通 (26)
五逆の大罪を犯した者	阿闍世王：父頻婆沙羅王を殺害→後悔、耆婆大臣の勧めにより仏を訪問→見仏・得預流果 (27)

⑨入滅	入滅予告、仏の病について仏による前生の因縁説明 (28) 優婆塞純陀の供養 (29) 羅睺羅との離別 (30) 入棺 (31) 摩訶迦葉への示現 (32) 生母との対面 (33) 荼毘葬 (34) 仏舍利分割、八の仏舍利塔および瓶・遺灰・遺髪之三塔を 建立 (35)
-----	---

《表6》 卷第四 仏入滅後にかかわる諸説話 (全41話)

() 内は巻第四の説話番号を示す

内容による分類		該当説話とその主な内容	
⑩仏法の 存続	仏法の伝持	第一回結集 (1)	
	仏法の衰退	羅睺羅の歎き (2) 老比丘尼の歎き (7)	
	仏法靈験	窶沙大羅漢、説法し (十二因縁の法)、聴聞者の随喜 の涙により物拏羅太子の目を癒す (4)	
⑪仏の不在／仏の痕跡 の存続	阿育王：仏舍利分割→多くの仏舍利塔を建立、供養 (3) 優婆嚩多：肉身の仏に対する追慕 (7, 8)		
⑫教団の 存続	阿羅漢・聖 者	神通力を用いた教化：名不詳 (5) 優婆嚩多 (6) 隠身の修行：碁を打つ老比丘／不眠の老比丘／林中の 狂比丘 (9) 僧沢 (10) 外道への教化：山人父子への教化 (11) 不信の国王へ の教化 (12)	
	比丘	旅の比丘：竜王のために經典読誦→生天を遂げさせる (13)	
	在家信徒	持戒の優婆塞：布施を納受・廻向→衣欠損の女人を救 済 (14) 貧者 (のちの髪起長者) 夫妻：祇園精舎で僧供→現生 に致富 (15)	
⑬ 仏像・ 經典等の 靈験	仏像靈験	絵仏：貧しい二人の施主および仏師のために身を分か つ (16) 仏立像：貧しい盗人のために玉を施す (17)	
	經典等 靈験	法華經	大象：聴聞→慈心を生ず (18) 500の鼠：聴聞→生天→人界転生後、得阿羅漢果 (19) 女人：十余行読習→夫に目を抉られつつ、天眼獲得 (22)
		三帰依文	辺土の男：受持→鬼神・毒蛇の難を免れる→王難を免 れる (20)

	三宝靈驗	国王に罪を犯した者：七日の三宝供養→死罪を免れる (21)
⑭教団の展開	大乘菩薩僧	仏法の伝持：竜樹菩薩 (24, 25) 提婆菩薩 (25) 無着菩薩 (26) 世親菩薩 (26) 教義の争論：護法菩薩・清弁菩薩 (27)
⑮仏法の伝播	外国弘通	外国比丘 (原拠においては玄奘)：修学等祈願→觀世音菩薩靈驗 (28)
	舍利供養の盛行	入定の阿羅漢：出定ののち入滅→国王、その骨髄を取り舍利塔を建立、供養 (29) 多くの法華経聴聞者：一智者、その頭骨を買い舍利塔を建立、供養 (30)
	田夫への浸透	旅の兄弟：不貪を知り、所持金を投棄 (34) 老翁・老嫗：無常・空を知り、一子の死を歎かず (35)
⑯仏法靈驗に類する現象		蛇毒を病む者：名医による施薬→治癒 (31) 難病を病む者：医薬への絶対的信心→治癒 (32) 牛突を行う者：牛へのひたすらな讃歎→致富 (33)
⑰諸仏の化現・靈驗	阿弥陀仏	鸚鵡鳥に化作、安息国の人々を浄土に引接 (36) 大魚に化作、孤島の人々を浄土に引接 (37)
	薬師仏	貧者、薬師仏像を廻り、前生の悪業を懺悔→薬師仏示現、致富実現 (38)
	弥勒菩薩	末田地大阿羅漢、自ら弥勒菩薩像を造立、弥勒菩薩実見を願う→弥勒菩薩示現、願成就 (39)
	十方諸仏	女子、孝養を志して遭難、十方諸仏に祈念→危難削除、志成就 (40)
	閻魔王	亡児追慕の父、閻魔王宮を訪ね、亡児との再会を願う→願成就 (41)

-
- * 1 例えば、池上海一「今昔物語集構成表」（三木紀人編『今昔物語集宇治拾遺物語必携』別冊國文學No.33、學燈社、1988年、pp.216-220）、川鶴進一「全卷構成表」（小峯和明編『今昔物語集を学ぶ人のために』世界思想社、2003年、pp.310-314）など。
 - * 2 《表1》「大きな分類」欄、各項冒頭の○付き数字は、《表2》～《表6》における「内容による分類」欄、各項冒頭の○付き数字と一致する。
 - * 3 原拠の内容については、今野達校注『今昔物語集一』新日本古典文学大系、岩波書店、1999年、の各話脚注を参照。原拠が仏の前身譚である全6話中、第13話、いわゆる月の菟の説話のみ布施行（身施）を描く。ほかの5話においては菩薩行を主題としない。
 - * 4 第15話における主人公は比丘だが、王族関連説話でもあるため、「王族」「比丘」双方に記入する。
 - * 5 * 4に同じ。
 - * 6 第19話における主人公は放生する男だが、異類報恩説話でもあるため、「人」「異類」双方に記入する。
 - * 7 舍利弗は一般に六師外道の一サンジャヤの弟子とされるが、本文においては長爪梵志に師事したと記される。
 - * 8 仏入滅後にかかわる説話のため、因縁物語の語り手は釈迦仏ではない。耶奢という名の長老（「奢上座」）である。
 - * 9 本文を欠くが、巻第二第20話の標題に「仏、耶輸多羅をして出家せしめたまへること」とある。耶輸多羅は比丘尼として扱われていたと考えられる。
 - * 10 予告の主体はテキストにおいて不明、原拠においては釈迦仏である。